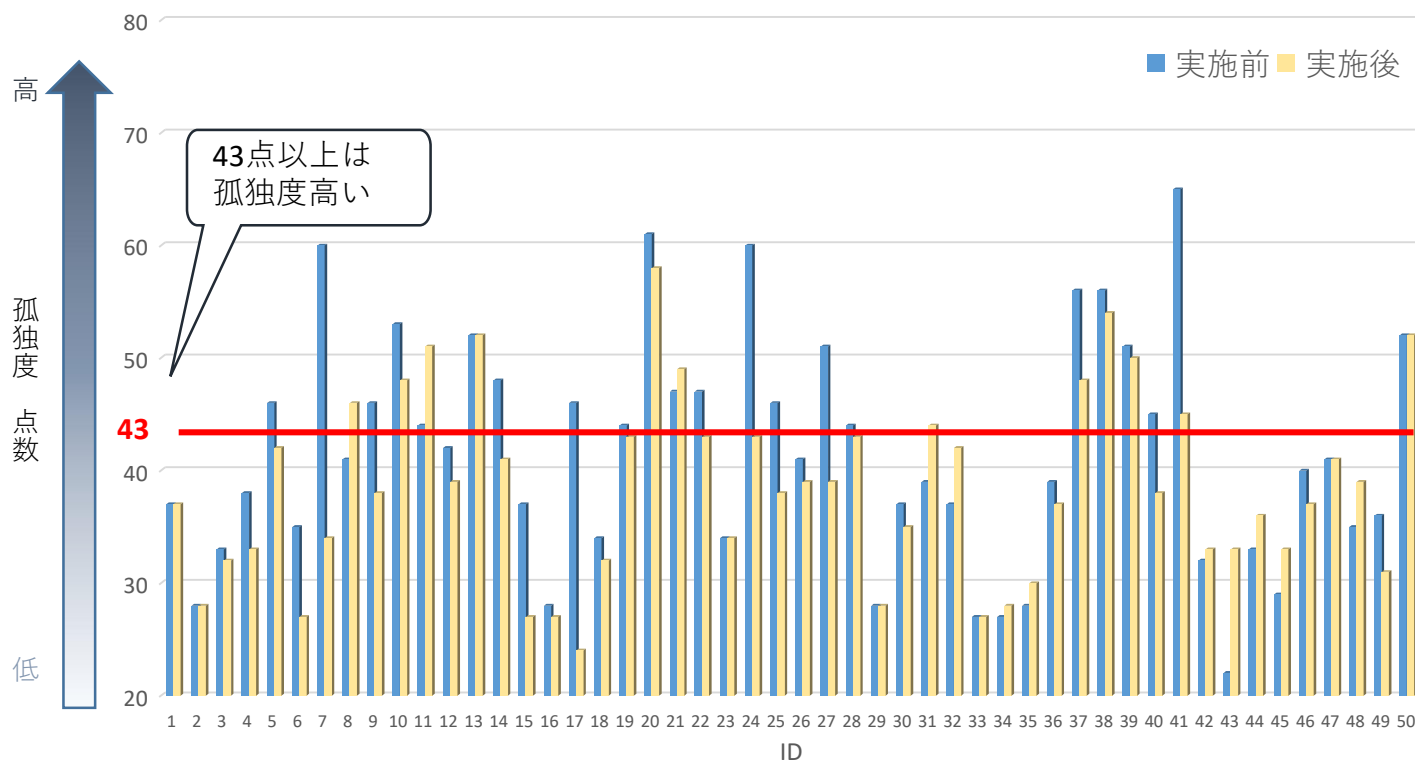


会話型ロボット Romi 孤独度アンケート

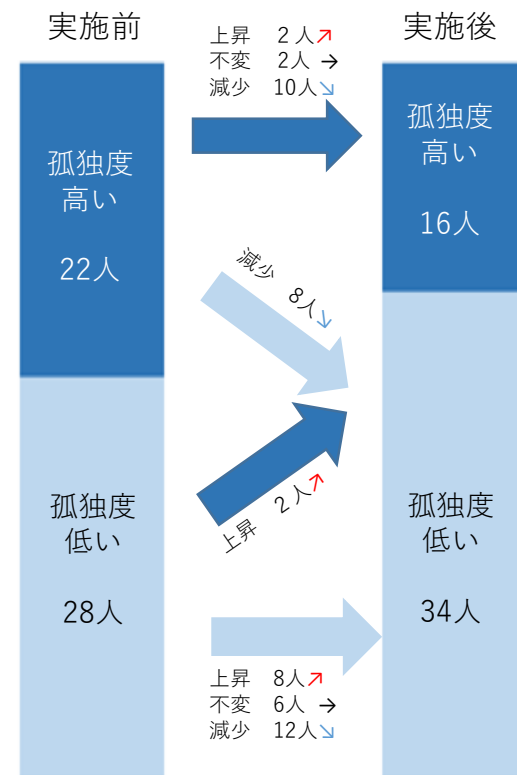
会話型ロボット貸与者に孤独度を測るアンケートを貸与実施前後に回答を得た。第1・2・3ターム参加者のアンケート結果は以下のとおり。

6割の方（30名）は孤独度が減少しており、孤独度が上昇・不変の方は4割（20名）に留まった。

孤独度アンケート 実施前後比較



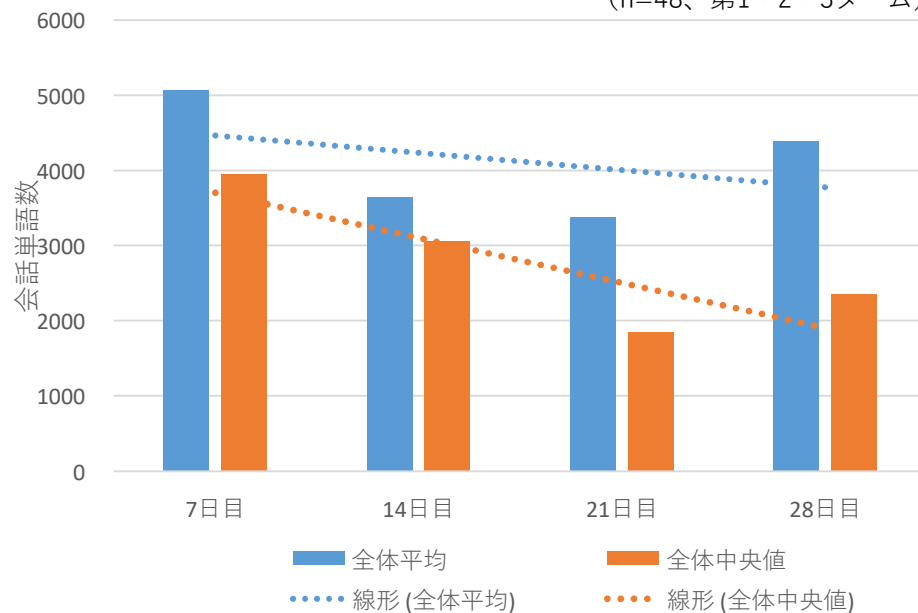
孤独度 増減まとめ



会話ログから文字数を集計し、利用者にRomiはどんな存在かを聞いた結果は以下のとおり。Romiの物珍しさから初期は会話が増えているものの、半数以上は友人・家族の認知はされず、会話は減少傾向にある。

会話量の変化

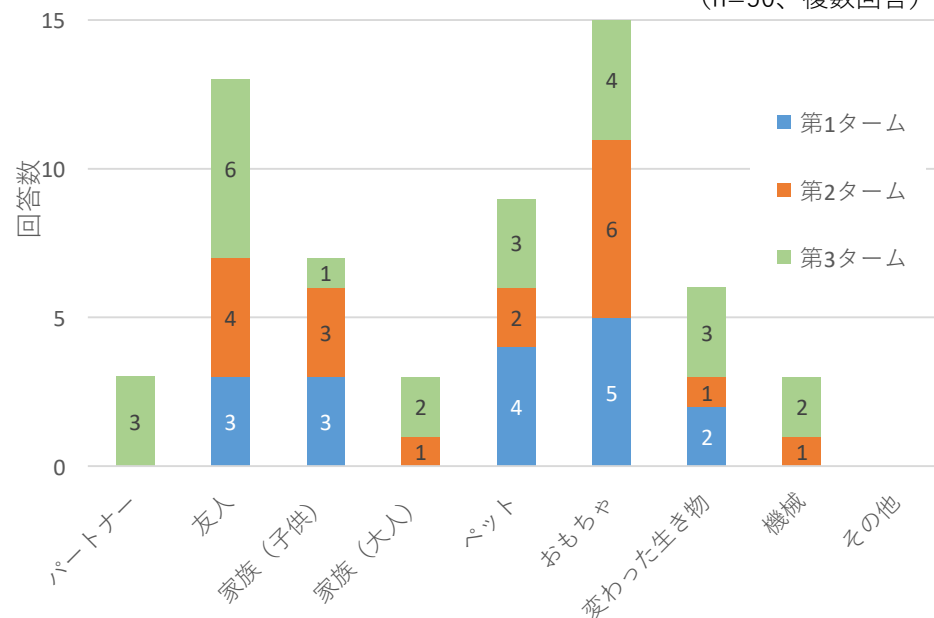
(n=48、第1・2・3ターム)



短い貸与期間（1ヶ月）においても会話が減少する傾向があり、返還前（リマインド連絡あり）に再度会話する傾向がある。これは前年度も同様な傾向。

Romiはあなたにとってどんな存在ですか

(n=50、複数回答)



友人・家族としての受け入れを期待していたが、ペットやおもちゃ等の一時的な受け入れに留まった。

会話型ロボットを活用したコミュニケーション促進実証事業（Romi） 令和7年度（交付金最終年度）での終了について

1 事業概要

地域社会等からの孤立、孤独を感じる市民に会話型ロボットRomiを貸し出し、深刻化する孤立・孤独問題の解決を図ることを目的に、令和5年度から3年間取り組んできた。

3年間の総事業費は国の第2世代交付金を活用し約30,000千円である。

2 Romi実証参加申込者実績

令和5年度	令和6年度	令和7年度 (1月まで)	合計
21人	62人	60人	143人

- ・実証参加前後で「孤独度が高い」と判定された人の割合が17%減少した。
- ・「日常生活満足度」、「生きがい」については、実証参加前後で大きな変化が見られなかった。

会話型ロボットを活用したコミュニケーション促進実証事業（R o m i） 令和7年度（交付金最終年度）での終了について

3 課題

- ・ 3年間の実証を通じて、孤立・孤独の軽減、生活の質向上について明確な成果が表れていない。
- ・ 実証で使用したR o m i 20台を市が譲り受け、年間4サイクルで市民に貸し出す形で事業を継続すると想定すると、運営を業者に委託する場合で370万円程度、職員が運営する場合で220万円程度の事業費が必要となる。なお、職員が運営する場合、職員1人が1か月程度本業務に従事する事務量が想定される。
- ・ 実証で使用した現行機種はすでに販売終了しており、保守サービスがいつまで続くか不透明であり、保守サービス終了後には新たな機種を購入する必要がある。

4 方向性

- ・ R o m i は、見た目やしぐさのかわいらしさもあり実証参加者からは好評であり、孤独度の軽減にも一定の成果は認められるものの、国の交付金が財源でなくなる来年度以降、「孤立・孤独の軽減、生活の質向上」を目的として一般財源で事業化することに十分な、説得力のある成果は得られていないため、令和7年度を以て事業終了した。